

2016年1月12日

記者各位

日本微生物防除剤協議会  
日本バイオリジカルコントロール協議会

**「第8回環境保全型農業シンポジウム」および  
「第19回日本バイオリジカルコントロール協議会講演会」  
共催シンポジウムの開催について  
～国産農産物の安定生産と輸出促進に寄与する IPM～**

日本微生物防除剤協議会と日本バイオリジカルコントロール協議会は、2016年3月2日(水)に題記シンポジウムを開催しますので、お知らせ致します。

環境保全型農業シンポジウムは微生物防除剤への理解および普及と、生物農薬を活用した「環境保全型農業」の全国的な普及を目的に2008年から開催しています。

環境保全型農業とは「農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業」\*であり、国の重要施策として産官学が連携して推進しています。

\*農林水産省「環境保全型農業の基本的考え方」より

日本バイオリジカルコントロール協議会による講演会は、天敵昆虫や微生物を用いた生物農薬やフェロモン剤による病害虫防除技術の普及・開発を目指し、1997年より毎年、日本各地で開催しています。

今回は「国産農産物の安定生産と輸出促進に寄与する IPM」をテーマとし、全国の生物農薬を活用した先進的な取り組みや、茶やいちごの農産物輸出に向けた生産現場での IPM 事例等を紹介します。特別講演では IPM に欠かせない生物防除資材の現状と課題や、東日本大震災被災地域での施設園芸再興とそこで活用されている IPM 技術について情報提供します。また、参加者の皆様と講演者とのコミュニケーションの場としてポスターセッションも行う予定です。

皆様のご参加をお待ちしております。

－参考－

＜生物農薬とは＞

もともと自然界に生息する有用な微生物や天敵昆虫を製剤化したもので、作物を病害虫から守ります。微生物防除剤は生物農薬のひとつで、「病原菌から植物を守る微生物」や「害虫から植物を守る微生物」を選抜し、生きた状態のまま使いやすく工夫した製剤です。

＜IPM とは＞

総合的病害虫・雑草管理。経済性を考慮しながら、化学農薬だけに頼るのではなく、複数の防除手段を組み合わせた防除体系。その際、環境への影響をできるだけ小さくするために防除手段として、輪作体系や病害虫抵抗性品種、防虫ネット等の物理的な防除、微生物防除剤や天敵、フェロモン等も積極的に使用していくことが重要です。

## シンポジウム開催概要

### 1. 日時

2016年3月2日(水) / 開会:11:00 / 閉会予定:17:50

### 2. 定員

350名(先着順) ※満席になりましたら、両協議会ウェブサイト上にてお知らせするとともに、申し込みを締め切らせていただきます。

### 3. 参加費

講演要旨代として 3,000円

懇親会に参加の方は別途5,000円

### 4. 会場

東京大学伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール

東京都文京区本郷7丁目3-1 / TEL:03-5841-0779

交通のご案内:本郷三丁目駅(地下鉄丸ノ内線・大江戸線)より徒歩6分

東大赤門前(都営バス 東43・茶51)より徒歩1分



### 5. お申し込みについて

(1) 期間:1月12日(火)～2月29日(月)

※満席になりましたら、両協議会ウェブサイト上にてお知らせするとともに、申し込みを締め切らせていただきます。

(2) 方法:両協議会ウェブサイトの申し込みフォームからメールでお申し込み下さい。

受付後、事務局から受付番号を返信しますので、当日お持ちください。

詳細につきましてはウェブサイトをご覧ください。

日本微生物防除剤協議会

<http://www.biseibutsu.jp/>

日本バイオリジカルコントロール協議会

<http://www.biocontrol.jp/>

(3) お問い合わせ先:

シンポジウム事務局:03-3643-0633(平日9:00～17:00)

(ホクト株式会社 担当:永井)

## 6.主催

日本微生物防除剤協議会（出光興産(株)、(株)エス・ディー・エス バイオテック、協友アグリ(株)、住友化学(株)、セントラル硝子(株)

日本バイオリジカルコントロール協議会（アリスタ ライフサイエンス(株)、協友アグリ(株)、信越化学工業(株)

## 7.後援

- 農林水産省
- 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター
- 日本植物病理学会 ●日本応用動物昆虫学会 ●日本農薬学会
- 日本植物防疫協会 ●日本植物調節剤研究協会 ●農林水産航空協会
- 全国農業改良普及支援協会 ●農薬工業会 ●全国農業協同組合連合会
- 全国農薬協同組合

～ お問い合わせ先 ～

日本微生物防除剤協議会 事務局 TEL:03-6895-1332

出光興産株式会社アグリバイオ事業部内（安井、内<sup>うち</sup>舂）

URL:<http://www.biseibutsu.jp/>

日本バイオリジカルコントロール協議会 事務局 TEL:03-3547-4572

アリスタ ライフサイエンス株式会社内（和田）

URL:<http://www.biocontrol.jp/>

報道関係者の方のお問い合わせ先

※ご取材いただけます場合には、下記宛にご連絡をお願い申し上げます。

出光興産株式会社 広報CSR室広報課（鎌田） TEL:03-3213-3115

## 参考資料

### シンポジウム プログラム

※敬称略

11:00 開会

11:05 (基調講演)

「日本産農産物の輸出促進と茶の海外輸出に対応した病害虫管理体系の構築」  
野菜茶業研究所 金谷茶業研究拠点 佐藤 安志

11:45 (IPM 事例報告)

「長崎県産いちごの台湾輸出に向けた防除体系確立への取り組み」  
長崎県病害虫防除所 平山 千穂

休憩 12:15～13:10

13:10 (特別講演)

「東日本大震災復興に向けた IPM 技術の活用」  
～宮城県山元町太陽光利用型植物工場における事例～  
宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部 伊藤 博祐

13:50 (IPM事例報告)

「施設メロンにおける黄化えそ病対策としての IPM 防除技術の取組み」  
アリストライフサイエンス(株)顧問 元高知県農業技術研究センター・果樹試験場 中村 幸生  
「オクラでの土着天敵を活用した IPM の取組み」  
鹿児島県南薩地域振興局 田代 啓一郎

休憩 14:50～15:05

「北部九州における露地ナス・IPM の取組みについて」

アリストライフサイエンス(株)顧問 元福岡県農業総合試験場・八女分場 林 三徳

「リンゴ、ナシにおけるヒメボクトウ防除について」

福島県農業総合センター果樹研究所 星 博綱

16:05 (特別講演)

「IPM における生物防除資材の利用の現状と課題」  
国立大学法人東京農工大学理事(教育担当)・副学長 国見 裕久

16:45 講演終了挨拶

17:00 ポスターセッション (講演者と参加者の face to face のコミュニケーション)  
～17:50

18:00 懇親会

## 日本微生物防除剤協議会の概要

日本微生物防除剤協議会は、「微生物防除剤」の普及促進を目的として、2006年8月1日に設立しました。会員会社は、正会員5社と賛助会員1社で構成しています。アドバイザーは、国立大学法人東京農工大学理事(教育担当)・副学長 国見裕久教授および一般社団法人日本植物防疫協会 高橋賢司技術顧問です。

## 日本微生物防除剤協議会・会員各社の概要

### ■ 出光興産株式会社

資本金:1,086億円

代表者:代表取締役社長 月岡 隆

事業内容:石油製品の精製・販売、石油化学製品の製造販売、資源調達、農業分野など

売上高:連結4兆6,297億円(2014年度実績)

### ■ 株式会社エス・ディー・エス バイオテック

資本金:8.1億円

代表者:代表取締役社長 高橋 順一

事業内容:農薬、工業用防黴剤、防疫薬剤及び特殊化学品の製造、輸入、販売

売上高:連結157.4億円(2014年度実績)

### ■ 協友アグリ株式会社

資本金:22.5億円

代表者:代表取締役社長 上園 孝雄

事業内容:農業用薬品の製造・販売および不動産の賃貸・管理

売上高:186.4億円(2014年10月期)

### ■ 住友化学株式会社

資本金:897億円(2015年3月末現在)

代表者:代表取締役社長 十倉 雅和

事業内容:石油化学部門、エネルギー・機能材料部門、情報電子化学部門、健康・農業関連事業部門、医薬品部門、その他

売上高:連結2兆3,767億円(2014年度実績)

### ■ セントラル硝子株式会社

資本金:181億円

代表者:代表取締役 社長執行役員 皿澤 修一

事業内容:各種板ガラス製品、化学品、ファインケミカル製品、肥料、ガラス繊維、微生物農薬・資材

売上高:1,990億円(2014年度実績)

## 日本バイオリジカルコントロール協議会の概要

日本バイオリジカルコントロール協議会は、天敵昆虫、微生物農薬、フェロモンなどの普及促進、技術開発の向上を目的として1997年4月に設立されました。

個人会員200名、賛助会員30社、正会員3社により構成されており、日本の生物防除の技術普及の促進を目的としています。化学農薬の天敵昆虫への影響表を掲載する機関誌はこれまでに通算26号を発刊しています。

## 日本バイオリジカルコントロール協議会・会員各社の概要

### ■ アリスタライフサイエンス株式会社

資本金:627億円

代表者:代表取締役社長 兼 CEO 小林 久哉

事業内容:化学農薬、生物農薬、生物防除資材、マルハナバチなど

売上高:128億円(2014年12月期)

### ■ 協友アグリ株式会社

資本金:22.5億円

代表者:代表取締役社長 上園 孝雄

事業内容:農業用薬品の製造・販売および不動産の賃貸・管理

売上高:186.4億円(2014年10月期)

### ■ 信越化学工業株式会社

資本金:1,194億円

代表者:代表取締役社長 森 俊三

事業内容:化学工業品、機能性化学品(フェロモン剤など)

売上高:1兆2,555億円(2015年3月期連結業績)